

# 論壇

## 貿易戦争の引き金に

トランプ大統領が鉄鋼やアルミに高関税をかけると宣言し、大きな騒ぎになっている。背景にあるのは、中国での鉄鋼やアルミの生産能力の大幅拡大である。この10年の間に中国では鉄鋼などの生産能力の大幅拡大が続き、世界の鉄鋼製品やアルミ製品の価格を下落させている。過剰生産が価格下落をもたらしているのだ。

米国には海外から多くの鉄鋼製品やアルミ製品が入ってきて、それが米国の生産者を苦しめている。鉄鋼やアルミは米国の安全保障にも関わる重要な産業であるの

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

で、海外からの輸入に一律に関税を課して国内産業を守る。これが米国の主張である。

現実には中国から米国に入ってくる鉄鋼やアルミはわずかで、カナダやブラジルなどいろいろな国から入ってくるので、米国としても全面的な輸入制限措置を取ることになった。日本の産業界も大きな影響を受ける。

## 米国の保護主義 どう止めるか

今回のトランプ大統領の措置が問題なのは、これが貿易戦争を引き起こすことになりかねないからだ。すでに欧州や中国は、米国に対して報復関税を課すと主張している。互いが競って関税を引き上げることを関税戦争というが、関

税戦争が広がれば世界経済に深刻な影響を及ぼしかねない。

保護主義的な発言を繰り返して当選したトランプ大統領については、就任当初から保護主義的な政策を実行することへの懸念が強かった。その懸念がここに至り現実化してきたのだ。米国の保護主義をどう止めるのか、そして世界規模での貿易戦争をどう防ぐのか。

米国の保護主義をどう止めるか。米国の保護主義をどう止めるのか、そして世界規模での貿易戦争をどう防ぐのか。米国の保護主義をどう止めるのか、そして世界規模での貿易戦争をどう防ぐのか。

現在の世界の貿易は、WTO(世界貿易機関)のルールに守られている。そこではいくつかの基本原則がある。一つはむやみに関税を引き上げてはいけないという原則

だ。二つ目には、全ての国に同じ関税を適用するという最恵国待遇の原則だ。こうしたルールがあるから、どの国も勝手に関税を引き上げることができない。それで保護主義が広がることを防いできた。

トランプ政権が行おうとしているのは、こうしたWTOのルールを無視した世界貿易秩序への挑戦だ。米国が安全保障という独自の論理で関税を引き上げれば、欧州などの報復を招き、世界貿易の秩序は崩れることになる。

被害は計り知れない

1930年代、世界大恐慌の中で各国が関税戦争に走り、それが世界の不況をさらに深刻なものにした。そうした反省があるので、

戦後はGATT(関税と貿易に関する一般協定)という枠組みの中で、そうした保護主義的な動きを抑制しようとした。このGATTが強化されてきたのが、現在のWTOである。WTOのもとでの自由な貿易は空気が水みたいな存在だ。それがなくなってしまうとその重要性が分かる。

今の時点でまだ過度に悲観的になる必要はないが、トランプ政権が今後どこまで保護主義的な政策を打ち出してくるのか、それに対して欧州や中国などがどこまで報復措置を打ってくるのか、警戒心を持つてみる必要がある。貿易戦争が本格化すれば、貿易に大きく依存する日本の産業が被害は計り知れないものとなるからだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。